

児童養護施設からの大学等進学に関する研究

- 語りからのモデル化をめざして -

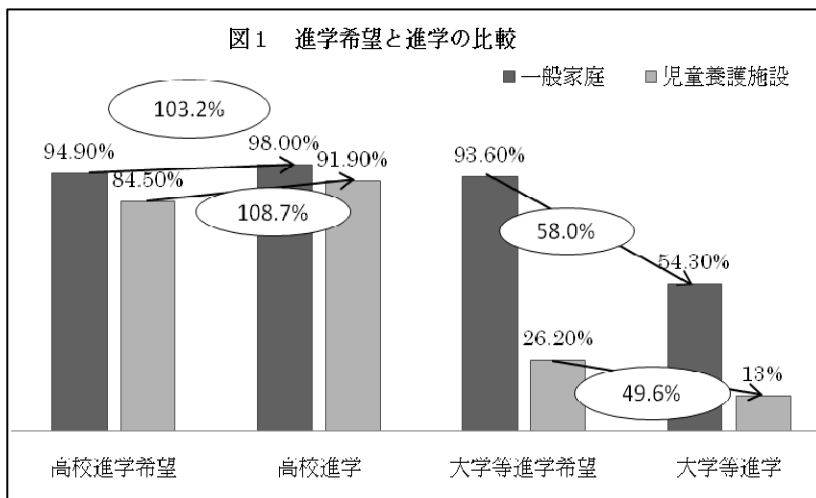
東洋大学大学院 永野 咲 (7173)

キーワード：児童養護施設 大学等進学 意欲/条件

1. 研究目的

近年、児童相談所への虐待相談件数が増加の一途をたどる中、児童養護施設においては約6割の子どもが被虐待体験を有しているといわれている。公的責任のもとで養育を担う児童養護施設は、子どもの衣食住を保障するだけでなく、本来的には子どもの人生の回復機会を提供する役割を負っていると考えられる。保障されるべき回復の機会を考えると、その一つとしてあげられるのは教育の機会である。貧困の再生産防止やレジリエンスの要因としても教育機会の重要性は挙げられており、児童養護施設で生活する子どもたちにとっての教育の重要性は高いと考えられる。しかし、その重要性に反して、児童養護施設からの大学等進学は一般家庭と比べて約4分の1程度にとどまっており、さまざまな統計結果の比較から¹⁾は、この差は 進学希望・意欲の低さ、 進学実現率の低さという二重の課題から生じている可能性がうかがえる(図1)。

進学率の格差が生む低学歴は、現代社会においてはさらなる不利を集積させる恐れがある。このような格差や不利が児童養護施設という一つの公的養育システムの中に集中している現状は、不条理であるといえ、解消が目指されなければならないであろう。そこで、本研究では、児童養護施設からの大学等進学が低位であることについて、子どもが置かれていた状況を構造的に把握し、進学へ影響を与える要素について考察することを目的とする。



2. 研究の視点および方法

本研究では、主観を尊重し重視するため、児童養護施設での生活経験がある10名に対し、インタビュー調査を行った。調査対象者の選定は、時代差・男女差・高校までの学歴差を少なくするよう配慮し、高校卒業まで児童養護施設に在籍していた20歳後半～30歳前半までに限定した。インタビューは半構造化面接にて、1人90分～120分程度行った。調査者は筆者のみである。喫茶店や事務所等にて行い、了解の後、ICレコーダーでの録音を行った。調査期間は2008(平成20)年5月下旬から同年11月上旬である。

3. 倫理的配慮

本研究に係る調査は、日本社会福祉学会研究倫理指針を厳守して行った。加えて、調査

対象者の人権や安全を最優先するよう細心の注意を払った。具体的には、事前に 研究の目的、 匿名性の厳守、 目的外使用をしないこと等を書面にて説明・誓約し、同意を得た上で署名を行なった。また、気分が悪くなった場合にはインタビューを中止することもできること、インタビュー後の情報開示についても可能なことを説明した。

得られたデータの逐語録は、質的データ分析法（佐藤 2008）を参考に分析した。具体的な手順は、 収集したデータから、大学等への進学についての語りを抽出（セグメント化）、 定性的コーディング（オープン・コーディング）、 図1等の先行研究を参考にコードを検討し「事例 コード・マトリックス」を作成、 さらに、焦点化コーディング、概念モデル化、という手順で行った。

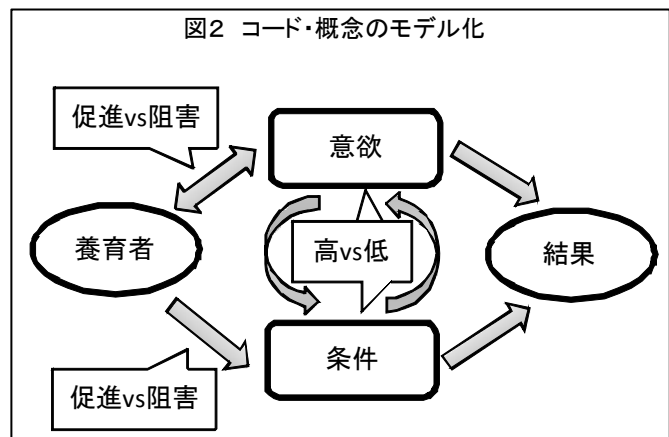
4. 研究結果

上記の分析の結果、コードは<養育者><意欲><条件><結果>の大きく4つに集約され、それぞれを構成する概念が抽出された。<養育者>コードには【意欲へのかかわり】と【条件へのかかわり】の大きく2つの概念が抽出された。この【意欲へのかかわり】には[進学への態度][提案][決定][話し合い][情報]の5項目が位置し、【条件へのかかわり】には[経済][環境]の2項目が位置した。そして、これらの下位概念は進学を促進するかかわりと阻害（非促進）するかかわりに分類された。養育者の状況が、大学等進学を促進するか阻害するかを象徴していると考えられる。

<意欲>コードからは、【目標】【進学可能性】【向上心】【モラトリアム】【境遇】の5つの概念の状況が進学意欲の高低に影響を与え、<条件>コードでは、【経済的状况】【学校】【施設】【家族】【地域】の5つの概念の状況が進学条件の高低に影響をもたらしていた。特に【経済的状况】には4つの下位概念が属し、影響の大きさがうかがえた。

<結果>コードでは、【学生生活】【進学への評価】【可能性】【自己の内省】【施設生活の意味づけ】【施設の進学実績】の6つの概念が抽出され、進学の結果が肯定的に語られた一方、非進学者の語りからも「進学しても良かった」といった【進学への評価】が整理された。

以上から、<養育者>の<意欲>・<条件>に対する促進的/阻害（非促進）的かかわりが、作用し合う意欲/条件へ影響をもたらす進学の<結果>となるモデルが提示される（図2）。本研究においては、児童養護施設からの大学等進学には、養育者（児童養護施設）がどのようなかかわりをしたかが、意欲/条件の状況に大きな影響を与え、進学結果につながっていると考えられる。



ⁱ データ出所は以下。 一般家庭・高校進学希望：Benesse 教育研究開発センター（2007）「第4回 学習基本調査・国内調査 中学生版」 一般家庭・大学進学希望：Benesse 教育研究開発センター（2007）「第4回 学習基本調査・国内調査 高校生版」 児童養護施設・高校進学および大学等進学希望：厚生労働省（2000）「児童養護施設入所児童等調査結果の概要」 児童養護施設・高校および大学等進学率：厚生労働省（2011）「社会的養護の現状について」『児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会 第2回議事次第』 一般家庭・高校および大学等進学率：平成22年度学校基本調査